

# 本松敬史 元西部方面総監 講話の拝聴所感

神町駐屯地修親会第三分会長

（第六後方支援連隊長）

一等陸佐 小島 一男

令和6年9月13日（金）、神町駐屯地において、陸修偕行社の陸上自衛隊等協力委員会の委員であり、元西部方面総監の本松敬史氏を招聘し、演題「我が国を取り巻く安全保障環境を踏まえた防衛体制（隊務運営等の在り方）について」の講話をいただきました。当日は、神町駐屯地に所属する修親会員約130名が本講話を受講しました。

本松氏は、第8師団長、西部方面

総監等を歴任したご経験を踏まえ、

説明され、部隊が行う訓練や事業を

できました。

地政学的観点から見た欧州及び中東並びに日本を取り巻く安全保障環境、周辺国が行動を起こす可能性と

して対象国の「意思」「能力」「トリガーアクション」がパロメーターになること及び

安保関連三文書に基づく「南西防衛体制強化の重要性」について具体的に説明され、我々が現職幹部自衛官として押さえるべき国際情勢と防衛体制・態勢について再認識するとともに、国内外に対する構えとしての抑止力と事態に対する対処力が重要であることを理解できました。

また、本題として、厳しい環境下における隊務運営の在り方について

質疑応答では、少子化の中における募集環境下において、離職する隊員を引き留めるための施策はいかに

との質問に対し、本松氏の沖縄地方協力本部長時代の経験談を基に、

自衛隊の特性・魅力に関する部外への発信能力の向上及びメディア等の有効活用が重要であると説明され、

今後の自衛隊における離職防止及び人材獲得への反映の資とすることが



神町駐屯地正門



神町駐屯地創立記念行事

## 児玉神社の現状

法人会員

(株)アシスト代表取締役

平井 宏治

わが国では、1992年以降、民間企業の平均年収は30年間伸びず、少子高齢化が進んでいる。檀家とし

最後に、神町駐屯修親会として、今回の講話依頼を快諾いただいた本松氏に心から感謝申し上げますとともに、陸修偕行社の益々のご発展を祈念いたします。